

■ 試験研究課題 事前評価結果（令和8年度開始課題）

判定基準 A：実施妥当、B：内容に改善が必要、C：実施不適當

機関名：上場営農センター

課題名	研究目的・目標	期待される成果	研究期間	総合判定
肥育牛における暑熱期の新ビタミンA濃度水準を維持する飼養管理技術の開発	暑熱期での新たな血中ビタミンA水準維持手法を明らかにし、通年で応用可能な技術を確立する。 また、より効率的に血中ビタミンAが維持でき、現場でも容易に応用可能な技術についても併せて検討する。 ・ 枝肉重量：550kg ・ A5等級率：70% ・ BMS No.：10 ・ 各ガイドラインの作成	<ul style="list-style-type: none"> 新たな血中ビタミンA水準が維持されることにより、枝肉重量が増加する。 安定的な肉用牛生産により、経営の安定化と技術の平準化を図る。 	令和8 ～ 12年度	A
カンショの病害虫防除技術の確立	カンショの作付け増加に伴い増加している塊根腐敗症状、定植後の各種病害、チョウ目害虫等の病害虫について、地域の発生状況に即した効果的な防除技術を確立する。 ・ 塊根腐敗症状の発生割合を現状10%の半分以下に低減 ・ 佐賀県版カンショの防除暦の作成	<ul style="list-style-type: none"> 病害虫の発生が低減され収量が増加し、所得が向上する。 害虫の発生消長を解明し、適期防除が可能になる。 未発生地に対して対策技術を普及させ、持続的な安定生産に貢献する。 	令和8 ～ 11年度	A

機関名：農業試験研究センター

課題名	研究目的・目標	期待される成果	研究期間	総合判定
自動操舵機能を活用したタマネギ生産の超省力機械化体系の開発	<p>タマネギにおいて、既存の機械化一貫体系に使用する全ての農業機械に、自動操舵機能を付与し、一連の生産管理作業の難易度を低下させ、雇用者（非熟練者）でも主要作業を担える環境を構築することで、超大規模経営の実現を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 機械の稼働時間の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 気象条件等により作業日が限定されたとしても、雇用者などの非熟練者でも主要な機械の操作が可能となり、超大規模経営が可能となる。 汎用性があるトラクターや乗用管理機に自動操舵機能を付与することにより、タマネギに加え米麦大豆を含めた経営全体の効率化が進む。 	令和8～10年度	A
定位阻害効果のある気門封鎖剤を活用したタバココナジラミの制御によるキュウリ退緑黄化病（CCYV）感染抑制技術の確立	<p>施設キュウリにおける定位阻害効果のある油脂系気門封鎖剤と有効な殺虫剤および葉害を軽減できる展着剤を適切に組み合わせたタバココナジラミの有効な防除体系を確立するとともに、本虫が媒介す CCYV の感染抑制効果について、明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 退緑黄化病多発圃場における退緑黄化病の発生株率（100%（2024））を20%以下へ低減 	<ul style="list-style-type: none"> ウイルス感染による収量低下が軽減され、所得向上につながる。 	令和8～10年度	A
夏期高温や燃油高騰に対応したキク栽培技術の確立及びシンクロトロン光を活用した有望品種の開発	<p>夏期高温下の開花遅延対策技術や、燃油高騰に対応した低コスト栽培技術の確立を行う。さらに、シンクロトロン光を活用した突然変異育種を用いて、省力効果の高い無側枝性や冬期の暖房コスト低減のための低温開花性キク、スプレーギクの花色のシリーズ化などの品種開発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> キクの8～9月開花作型における消灯後8週間までの収穫率80% キクの2～3月開花作型における加温コスト15%削減 シンクロトロン光照射による有望系統の作出 	<ul style="list-style-type: none"> 県内の花き生産者の所得向上及び花き産地の拡大につながる。 県内にある九州シンクロトロン光研究センターを活用できるため、地の利を生かした効率的な突然変異育種に取り組むことができ、有利販売が可能な県独自品種の開発が可能になる。 	令和8～12年度	A

課題名	研究目的・目標	期待される成果	研究期間	総合判定
大規模経営を可能とする水稲乾田直播栽培技術の確立	<p>県内現地における実態調査により圃場条件や栽培様式毎の課題や成功事例等を整理し、それを基に移植水稲並みの収量品質が確保できるよう、施肥体系や効果的な除草体系、播種時期の早晩限など栽培技術を確認する。また、多様な条件下においても乾田直播栽培を行えるよう、圃場条件などに合わせた栽培方法や対策技術を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 労働時間：移植栽培から 30%削減 収量：移植栽培対比 95%以上 品質：移植栽培と同等 	<ul style="list-style-type: none"> 乾田直播栽培の技術を確認することで、安定した収量品質が確保され、現地への普及へつながる。 水稲栽培の省力化・作業分散が可能となり、移植と乾田直播を組み合わせた大規模経営が可能となる。 担い手の面積拡大による農地の維持や余剰労働力を活用した露地野菜等の導入が図られる。 	令和 8 ～ 11 年度	A
佐賀県で新たに脅威となる米麦病害虫の防除技術の開発	<p>新しく顕在化したこれら病害虫の防除技術を早急に確立し、県内米麦の安定生産を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> コブノメイガの食害株率 57% (2024 年) から 20%へ縮減 コムギ黄斑病の発生茎率 69% (2024 年) から 30%へ縮減 	<ul style="list-style-type: none"> 近年問題となっている病害虫の被害が軽減され、米麦の生産性が大きく向上する。 	令和 8 ～ 11 年度	A

機関名：果樹試験場

課題名	研究目的・目標	期待される成果	研究期間	総合判定
果樹における難防除および新奇病害虫の迅速な防除技術の確立	ナシ胴枯細菌病に対する防除対策技術を確立する。また、「佐賀果試 35 号」の外観品質を低下させる病害に対する防除体系の改善、検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ナシ胴枯細菌病による枯死樹が減少することで生産量が増加し、農家所得の向上につながる。 「佐賀果試 35 号」の外観に悪影響を及ぼす病害の防除が効果的・効率的に行われることで、外観品質が向上し、「にじゅうまる」ブランド力の強化と農家所得の向上につながる。 	令和 8 ～ 10 年度	A
高品質・収量 2 倍を目指したブドウ 2 段仕立て法の開発	<p>高品質（糖度 18 度以上）で、収量 3.0t/10a を確保でき、さらに作業負担を軽減した栽培方法を開発する。</p> <p>～追加項目（抜粋）～</p> <ol style="list-style-type: none"> “2 段仕立て法”の開発 <ol style="list-style-type: none"> 新梢の管理方法の開発 <ol style="list-style-type: none"> 仕立て法の違いおよび上下段による生育差の把握（追加） 果房の管理方法の開発 <ol style="list-style-type: none"> 1 房 500～600g の房づくりのための適正な管理方法の検討（延長） マルチ被覆による品質への影響の確認（追加） マニュアルの作成（延長） 	<ul style="list-style-type: none"> 高品質・収量 3.0t/10a を確保可能で、作業負担を軽減できる栽培方法として確立することで、新規就農者（定年退職者含む）の獲得につながる。また、既存生産者が導入することで、面積拡大の促進につながる。 	平成 31 ～ 令和 10 年度 ※3 年 間延長	A

課題名	研究目的・目標	・ 期待される成果	研究 期間	総合 判定
佐賀果試 35 号の安定供給を可能にする栽培技術の確立	<p>「佐賀果試 35 号」の出荷時期に対応した栽培マニュアルの作成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブランド率 80% ・ 裂果の発生を 10%以下に軽減 ・ 長期貯蔵技術で 5 月まで青果率 90%以上保持 <p>～追加項目（抜粋）～</p> <p>2) 露地栽培における貯蔵性を活かした高品質果実生産技術の確立</p> <p>(2) 出荷時期分散のための貯蔵技術の確立(延長)</p> <p>4. 無加温栽培における裂果軽減技術の確立（追加）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 裂果発生の要因解明 2) 夏秋季の高温・乾燥抑制技術の確立 3) 土壌理化学性と地下部生育の実態把握と土壌改良法の検討 4) 液肥等を活用した樹勢維持、果実体質の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「にじゅうまる」ブランド力の維持・強化 ・ 「佐賀果試 35 号」生産者の収益性向上 	令和 3 ～ 10 年度 ※3 年 間延長	A

機関名：茶業試験場

課題名	研究目的・目標	期待される成果	研究期間	総合判定
碾茶等の長期被覆茶園における輸出に対応した有機栽培技術の確立	碾茶等の長期被覆茶園における安定した収量・品質が維持できる県内産地に適応した有機栽培技術を確立する。併せて栽培管理作業の省力化技術を開発する。	<ul style="list-style-type: none"> 需要が高まっている碾茶およびモガ茶の生産量が増加し、輸出や国内抹茶需要など販路拡大が図られる。特に中山間地における茶業経営の安定に貢献する。 	令和8 ～ 12年度	A

機関名：畜産試験場

課題名	研究目的・目標	期待される成果	研究期間	総合判定
牛の採胎における正常胚率向上技術の検討	黒毛和種牛繁殖農家において、1回の採胎で得られる正常胚を増加し、胚移植による県内産黒毛和種子牛の生産を拡大する。 <ul style="list-style-type: none"> 主に暑熱期および寒冷期の正常胚率を向上させ、全体として10ポイント(%)向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 効率的かつ安定した胚生産による収益性向上と胚移植の増加に伴う黒毛和種子牛の生産増加につながる。 	令和8 ～ 10年度	A
多様な畜種や規模に対応した堆肥化作業低減技術の開発	多様な畜種や規模に合わせた、省力的に良質堆肥を生産する技術を開発する。また、堆肥舎での通風乾燥について検討を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 作業時間を50%削減できる畜種に応じた堆肥の省力化技術及び堆肥水分30%以下。 	<ul style="list-style-type: none"> 堆肥化作業時間の削減によって、家畜飼養管理に充てられる時間が増加する。その結果、飼養頭数増加、生産物の品質向上につながり、農業産出額増へ寄与する。 	令和8 ～ 11年度	A

機関名：林業試験場

課題名	研究目的・目標	期待される成果	研究期間	総合判定
DNA 情報を活用したサガンスギの無花粉化に関する研究	DNA 情報を利用して短期間で無花粉サガンスギを作出する。 ○成長、材質に優れたヘテロ個体の選抜 <ul style="list-style-type: none"> ・ 無花粉遺伝子による選抜（出現確率 50%） ・ ゲノミック予測による選抜（上位 2.5%） ○無花粉個体の選抜 <ul style="list-style-type: none"> ・ 無花粉遺伝子による選抜（出現確率 25%） ・ ゲノミック予測による選抜（上位 10%） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ DNA 情報を用いた無花粉サガンスギの作出スキームを確立できる。 ・ 林木育種が抱える時間的な問題を、DNA 情報の活用で解決できる。 	令和 8 ～ 12 年度	A
サガンスギで下刈り 1 回を実現するための育苗・造林技術の開発	サガンスギを植栽して下刈りが 1 回で済むような育苗・造林技術の開発と下刈り時期の検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ サガンスギを植栽して 2 成長期終了時に樹高 2 m に達するための育苗・植栽条件を明らかにすることで、下刈り 1 回が可能となる。 ・ 下刈り 1 回で済む条件が明らかになることで、再造林にかかるコストや人工数の予測ができるようになり、林業の採算性が向上する。 	令和 8 ～ 12 年度	A